

宮崎市出身の瑛九（本名：杉田秀夫）は、生涯を通じて常に新しい表現を求め、写真や版画、油彩など様々な技法に取り組みました。またその作風も、初期から晩年に至るまで、印象派やシュルレアリスム（超現実主義）風、抽象的な作品など、多彩に変化しました。

20代でフォト・デッサン集『眠りの理由』を刊行し、一躍美術界で脚光を浴びた瑛九は、様々な技法や表現を模索した後に、その集大成ともいえる点描による絵画空間へとたどり着きました。

今回の展示では、各領域の代表的な作品とともに、瑛九の表現において重要なモチーフであった「眼」が見られる作品を特集して紹介します。没後60年近くを経て、今なお輝き続ける瑛九作品の魅力をお楽しみください。

## ■展示作品リスト

No.	作家名	生没年	作品名	制作年	大きさ(cm)	技法
1	玉井 瑞夫	1923~2014	「瑛九氏」	1952(昭和27)	30.4×25.0	写真
2	瑛九	1911~1960	フォト・デッサン集『眠りの理由』より	1936(昭和11)	21.6×26.6	フォト・デッサン
3	瑛九	1911~1960	Visitors to a Ballet Performance	1950(昭和25)	45.7×55.8	フォト・デッサン
4	瑛九	1911~1960	ダンス	1953(昭和28)	29.3×23.2	フォト・デッサン
5	瑛九	1911~1960	ともしび	1957(昭和32)	53.5×40.8	リトグラフ
6	瑛九	1911~1960	鳥のピアノ	1957(昭和32)	36.4×22.3	リトグラフ
7	瑛九	1911~1960	マッチの軌跡	1936(昭和11)	53.2×45.7	油彩
8	瑛九	1911~1960	街	1947(昭和22)	116.8×91.5	油彩
9	瑛九	1911~1960	月	1957(昭和32)	162.2×130.5	油彩, 吹き付け
10	瑛九	1911~1960	籠目の青	1957(昭和32)	72.9×53.3	油彩
11	瑛九	1911~1960	あつまり	1958(昭和33)	45.6×53.0	油彩
12	瑛九	1911~1960	作品	1959(昭和34)	64.7×79.3	油彩
13	瑛九	1911~1960	つばさ	1959(昭和34)	259.0×181.8	油彩
14	瑛九	1911~1960	眼	1936(昭和11)	27.6×23.0	フォト・コラージュ
15	瑛九	1911~1960	母	1953(昭和28)	29.1×23.8	エッチング
16	瑛九	1911~1960	眼	1952(昭和27)	21.0×15.2	エッチング
17	瑛九	1911~1960	怒り	1953(昭和28)	23.3×18.1	エッチング
18	瑛九	1911~1960	過去	1953(昭和28)	16.1×26.9	エッチング
19	瑛九	1911~1960	サーカス	1956(昭和31)	23.5×18.1	エッチング
20	瑛九	1911~1960	森の太陽	1956(昭和31)	38.6×26.0	リトグラフ
21	瑛九	1911~1960	舞踏会の夜	1957(昭和32)	35.2×23.5	リトグラフ
22	瑛九	1911~1960	顔	1957(昭和32)	38.9×26.6	リトグラフ
23	瑛九	1911~1960	眼が回る	1955(昭和30)	53.5×65.1	油彩
24	瑛九	1911~1960	愛の歌	1957(昭和32)	79.8×65.4	吹き付け
25	瑛九	1911~1960	空の目	1957(昭和32)	72.7×60.9	油彩